能北新聞

秋田県能代市追分町1の36
編集　新聞委員会
発行　能代北高生徒会
印刷所　㈱大勝堂印刷

インターハイ秋田大会
体操（団体・個人）卓球（個人・ダブルス）に出場権
地元での活躍に期待

今年の全国高等学校総合体育大会（インターハイ）は、七月三十一日の開会式を皮切りに秋田県内各地で開催される。本校からは、体操部・卓球部が見事、出場権を獲得した。現在、両部は大会に向けて猛練習中である。

全県総体では、団体・個人ともに圧倒的な強さで優勝、若鮎のインターハイ出場を決めた体操部。

北川主将は「地元で行われるインターハイに出場することができてうれしい。三年生はひとりだが二年生と励まし合ってがんばりたい」と語ってくれた。出場選手は北川紀子・大高朋子・大高晴美・坂本律子の四選手。いずれも個人戦にも出場する。顧問の楔谷和子先生に、今後の課題と抱負をうかがうと「インターハイでは、難度の高い、しかも確実な演技が要求される。これからは、平行棒や跳馬を中心に練習していかなければならない。選手たちもそのことを意識してがんばっているようだ。予選通過が目標」と語ってくださった。

インターハイ出場を決めた選手たち
（前列卓球部、後列体操部）

卓球部は団体出場はできなかったが、泉元子、藩田陽子の二選手が個人ダブルスに出場する。

泉さんは「まず、一回戦を勝ち抜いて調子をつけたい。地元なので、精一杯がんばりたい」と抱負を語ってくれた。顧問の中田幸雄先生は「"初心を忘れず"を選手たちに言いきかせている。一戦を大切に戦ってほしい」と語ってくださった。

東北大会で健闘

体操部は、六月二十二日から行われた東北高校体操選手権で、団体三位、個人では坂本選手が総合四位に入賞した。東北大会での健闘はインターハイへ向けての快調なスタートとなった。

また陸上部は、二十二日から全国高校陸上競技対抗選手権大会東北地区予選会に出場した。インターハイ出場権をかけたこの大会、結果は、長谷山優子選手が高跳びで八位に入賞したが、インターハイ出場へは、あと一歩というところであった。

小さなデータ
図書館利用率

5月31日調査 ………1154人対象

	1年	2年	3年	平均
利用したことがない	1	76	55	44
1・2回	89	14	25	43
3～5回	7	6	14	9
6回以上	3	4	6	4

単位（%）

佐藤校長先生よろしく
魚料理がお得意

「北高生の印象は素直でさわやかなことかナ。制服も高校生らしくてとても良いと思うネ」と北高生の印象を口にされた校長先生。新聞委員二人は校長室にお邪魔して、お話をうかがった。

佐藤好敏（よしとし）校長先生は、県立博物館副館長、県教育委員会社会教育課長を歴任し、この四月、第十七代校長として本校に着任された。昭和二年十一月二十一日生まれの五十六歳でいらっしゃる。夏は登山、冬はスキーと活気あふれる趣味をお持ちだ。また、魚料理を大の得意とし、お魚が好物であるとのこと。

北高生への注文をお聞きすると「学習態度にもうひとつねばり強さが欲しいですネ。この学校は県の女子校では進学率第二位というレベルの高いところなんだから、他校に負けないようにがんばってほしい」とあたかもご自分が進学する人でもあるように、イスから体を乗り出して言われた。生徒との接触をはかるため、さっそく三年生と対話の時間を設けて、校長先生の学生時代や、社会へ出てからのお話もしておられる。「あいさつは人間の基本」と考え、何事につけてもあいさつを重んじている校長先生である。

"生徒と共にがんばります"

そして、生徒が学力をつけ、正しい生活習慣を身につけるために先生方や、P.T.A、同窓会の方々ともども力を合わせて行きたいと言われている。そんな校長先生にとって、生徒の不始末が耳に入ってくることが、一番気がかりなことだという。

校長先生は、取材の委員に対しても、とても気さくに話しかけてくださり、どちらが取材しているのか分からない感じにもなりかけてしまうこともあった。「よりいっそう楽しい学校をつくっていきたい」と意欲を燃やしておられるお気持ちが、強く感じ取られた。

校長室掃除を担当している三年二組の生徒からは「掃除中、気さくに話しかけてくださり楽しい。私たちの日常の生活に、とても関心をもっておられるようだ」と、なかなかの人気である。

セミナーハウス完成
七月から使用できる

セミナーハウスの建設は、一月九日から着工されていたが、六月下旬までで、内部設備などすべてが完成となる。完成の予定は、三月いっぱいということであったが、取りかかりが冬で、しかも例年にない豪雪であったため、約三カ月延長されての完成である。

建て物は鉄骨構造二階建てで、総面積は四百五十四・三八二平方メートルである。

内部の設備は合わせて六部屋四十八人の収容能力があり各宿泊室には温風ストーブ、調理室には調理台、ガスコンロ、二層流し台、冷凍冷蔵庫、風呂場には、洗濯機、乾燥機などが、設備された。

備品は、約七百万円の予算で、食堂のテーブルやいす、食器、風呂の洗濯機、研修室のテレビ、行事移動黒板、姿見、宿泊用の二段ベッドに合わせた布団、毛布、枕など設備や備品は必要なものから順に揃える予定である。旧セミナーハウスで使用した食器や布団なども可能なものは使用するとのことである。

生まれかわったセミナーハウス

事務長先生は「セミナーハウスへは、グランドを通っていくわけだがフィールドを横切らず、トラックをまわって行くようにしてほしい」と言われた。

物資の輸送はいろいろな案があったが、結局第三小学校側の道路からグランドへ通路を作って行うことになり、すでに工事に入っている。

実際に使用が可能になるのは、七月上旬以降となる。

使用する場合の申し込み方法について係の藤本先生は「例年と同じ形式で、職員室にある行事予定表に各クラブやホームルームの希望を書く。重なった場合は前後に時期をずらす、抽選で決めるなどをして調節する予定である」とおっしゃっていた。

内部を見学した生徒は、「校舎の近くに出来て便利だ。中もとてもきれいで設備もいい。早く合宿したい」と語っていた。

生徒総会
予算11,550,059円
3年生が活発に発言

今年度前期生徒総会は、五月四日に行われ、次の四つの議題について討論された。

一、昨年度、生徒会執行部、各小委員会、活動経過報告
二、昨年度決算報告
三、今年度、執行部・各小委員会、活動方針と目標および活動計画
四、今年度予算審議

昨年度に関する議題一・二についてはスムーズに会がはこばれ、質問は一つも出ずに承認された。

今年度についての議題三では、特に三年生が積極的で、各小委員会の活動内容に対する質問や意見要望が活発に出された。

例えば、風紀委員会へは減量物についての質問が出され、「去年は国語辞典の減量が認められていて、先生のいうとおり、家に一冊学校に一冊ということで二冊買ってしまったのだが―」という質問に対し「それを認めてしまうと、一冊しか持っていなくてもおいていく人がいるので全面的に禁止した」という委員長の答弁であった。

議題四の今年度予算審議では、総額一一、五五〇、〇五九円で承認された。

これは昨年度より一六二、八一〇円の増である。増にはなっているが生徒会予算は、生徒会費の値上げをせずに組んだことによりこれまでにない緊縮予算となった。したがって増加分は、主に国鉄運賃の値上げにともなう自然増である。

また今年は59インターハイの学校負担金もあり財政難であったため、予算案決定までのやりくりにはたいへん苦労したそうだ。

昨年度は、生徒総会で予算案が過半数を得ることができず、二度目の審議で承認されたため今年はかなり慎重にとりくみ、執行部では各クラブとの予算折衝を重ね、また中央委員会でも、昨年度決算・今年度予算など、生徒総会に提出する案件の審議が行われた。こうして事前の準備をしっかり行ったため、無事、承認された。

放送番組全国へ

六月二十・二十一日に行われた第三十一回NHK高校放送コンクールの番組製作部門で、出品された八十本の作品の中から、本校の二本の作品が入賞、全国大会へ出品されることになった。

入賞作品は朗読の部の「早春賦」と自由の部の「変身願望」の二つ。連日遅くまでかかっての奮闘が実を結んだ。

人事異動

・ご退任になった先生
又井阿素雄校長・日沼賢子先生・大沼秀彦先生・石田丈夫先生

・ご転出になった先生　（　）は新任校
武田保夫先生（能代商）・佐藤隆先生（能代高）・牧野尚信先生（二ツ井高）・中村弘子先生（教育庁北教育事務所山本出張所）・米森功さん（能代農）

・ご着任になった先生　（　）は前任校
佐藤好敏先生（教育庁社会教育課長）・田尻憲一先生（二ツ井高）・田口強三先生（能代工）・鎌田政司先生（能代農）・浅野ルリ子先生（鷹巣農林）・本多孝先生（採用）・石岡恭子先生（能代工）・大高芳雄先生（能代工）・武田重信さん（能代高）

論説
近づく二大行事

もう数十日後にせまった59インターハイと北高七十周年という大きな行事を迎えるために、運動部はもとより、生徒会、推進委員会、文化部などでは、それぞれの役割を果たそうと、今張り切って準備に取り組んでいる。

私たちはインターハイに対して、いろいろな行動をすでに始めているのだが、「一人一役」とはいっても、今ひとつ実感が乏しいように感じる。

昨年の愛知インターハイを視察した桜田弘美さんの話によると、愛知の高校生も、今北高生がしているように、推進委員会を作って記念品の作製をしたり鹿児島インターハイの記録映画を全校生徒に見せたりして、生徒の関心を高める努力をしていたそうだ。また、大会の期間中は、あいさつ運動をし、遠来の人々に良い印象を与えるよう、心がけていたということだ。

私たちも愛知の高校生のように、秋田県また能代に来る他県の人と快く応待しようではないか。

インターハイに続いて、今年は七十周年記念行事がある。一言に七十年と言っても、いったいどのくらい前なのかよくわからないのではないかと思う。

今から七十年前といえば、第一次世界大戦が始まった年である。第二次大隈重信内閣が成立したのもこの年で、前年には江戸幕府十五代将軍徳川慶喜が病気のため死去している。また夏目漱石の「こころ」の出版、宝塚の初公演もこのころである。とすれば、当時の授業内容、生徒の考え方、生活状態など、現代とはかなり違っていたことであろう。七十年は本当に長い期間だと思う。

しかし、アルバムなどで六十年前、五十年前……二十年前、十年前と年月をたどってみると意外にも確実に歴史が現在に近づいてきたことがわかる。そして、その北高七十年の歴史の先端に、自分たちが立っていることが実感される。自分たちが北高の伝統を守り、さらに発展させる使命を担っていることがわかる。

このように今年は、日本全国の高校生が参加するインターハイと、長い歴史を振り返らせてくれる七十周年記念行事によって、日常生活の空間と時間を越えた視点で、自分自身の位置を確かめてみることのできる年である。忙しくて苦しいことではあるが、よく分担、協力して、広い目を養いたいものだ。

あんてな
正義感を行動に

県警の免許証汚職事件は県民に大きなショックを与えた。また婦人補導員が万引きをするという事件もあった。この事件には現職の警察官をはじめ、警察職員、会社員、さらに医師までもが関係していた。犯罪を取り締まり、青少年の不良化を防ぎ善導すべき立場の人間が罪を犯しているのだ。▼今度の事件に関係した人びとは国民に「正義」を行わせる立場にある。または、「正義」に則って自ら働く人たちである。善悪の判断は人並以上に厳しい人たちでなければならなかった。世の人々の模範であるべき人たちの背信行為は許せない。▼このような恐ろしい事実がなぜあり得るのだろうか。欲にかられて地位やお金を求め、しかも楽をしていいカッコウをしたがるのは現代の若者に共通した性格かもしれない。現代の若者は、上べだけを重視し、ものの分別もおろそかで社会の真の厳しさを知らないと言われている。苦労知らず、がまん知らずの若者がそのまま実社会に出て「一人前」の社会人と扱われ、例外的に異常な事件ではあるが、今回のようなことを引き起こす。▼さて、同じ現代の若者である北高生の正義感、倫理観はどう育っているのだろうか。今度の事件には「皆がやっているんだから」とか「まさか見つかりはしないだろう」という安易な気持ちがのぞかれる。考えてみると北高生にもそのような面が見られはしないだろうか。集会時の騒がしさ、整容の違反、また勉強や掃除で手を抜くことも似かよった意識の現われである。周りもしていることだからという意識が、「自分だけはしない」という意識に勝ってしまう。「騒いではいけない」という自覚はだれにでもあるはずなのである。私たちはそれを実行できない心の弱さに気づかなければならない。